

## 【2024年6月東北温泉旅青森・岩手の写真2】





































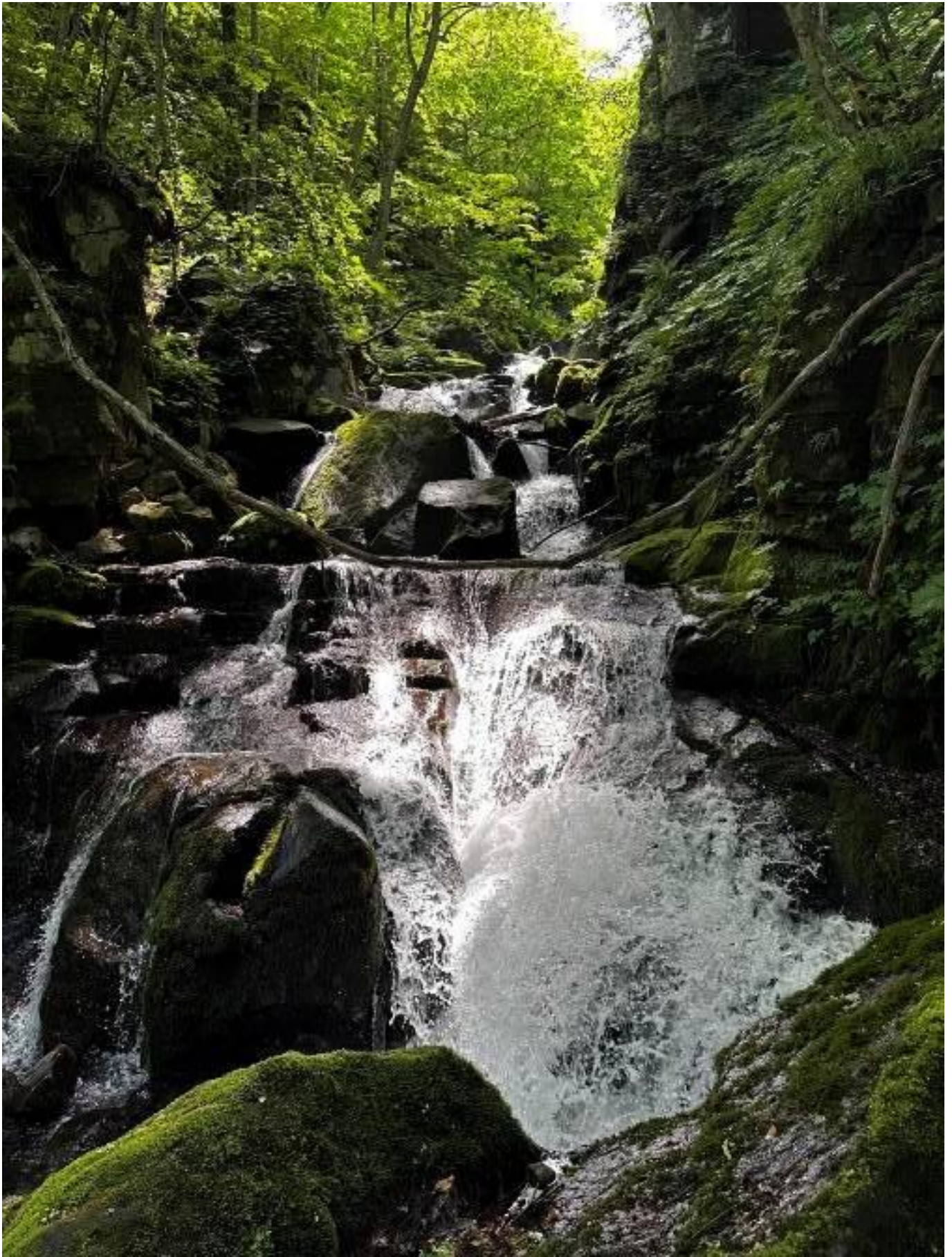














































奥入瀬 瀬谷の賦 佐藤春夫

瀬に鳴り瀾に咽びて

奥入瀬の水歌ふなり

しばしば不陰に佇みて

耳がたむけよ旅人よ

うれしかうすや慈深み

林のわれを養ふは

水清くして魚住ます

望すくひて愁あり

十和田の湖の波の裔

身の清冽を愛しめども

深山をゆく野に向ふ

身の現世こそ是非なけれ

友よ谷間の苔清水

齒牙の咥よ龍つ瀬よ

やがて野川に濁るべき

明日の運命は数かされ

しばしば此処にいざよひて

さみどり深く閑したる

高山の氣を身に染めん

花も楓も多なるを

林に藤の大蛇あり

谿に桜の鰐朽ちて

何を求め争ふや

わが幻をにくむかな

さもあらはあれ木洩目の

漂ふ波に光あり

水泡は白く花と咲き

驚老いて春長し

もしそれ霜にうつろはば

狭霧のひまの高麗錦

流るる影も栄えあり

みな一時の夢ながら

わが行く前の十四キロ

ここに歌あり平和あり

また栄あり劣らぬや

浮べる雲のよろこびに



